

立命館大学大学院言語教育情報研究科主催公開講座

「英語学と英語教育の接点」

主催：立命館大学大学院言語教育情報研究科

この情報は、転送自由です。

第3回は、2026年3月8日（日）に開催します。

実施形態：対面

会場：立命館大学衣笠キャンパス（京都市北区等持院北町56-1）
平井嘉一郎記念図書館カンファレンスルーム

立命館大学衣笠キャンパスのキャンパスマップ：

<https://www.ritsumei.ac.jp/campusmap/kinugasa/>

立命館大学衣笠キャンパスへのアクセス方法：

<https://www.ritsumei.ac.jp/accessmap/kinugasa/>

参加費：無料

申し込み：不要

問い合わせ先：takizawa[アット]li.ritsumei.ac.jp

13:00-14:20：滝沢直宏「Firth の言語観とその継承——コーパス、そして生成 AI」

概要： イギリスの言語学者 John R. Firth は、A word is known by the company it keeps. と述べている。しかし、この考えに基づいて各語の振る舞いを詳細に記述することは、Firth の時代には技術的に不可能であった。これが可能になるには、コンピュータ技術の発展、記憶媒体の大容量化が不可欠で、この 2 つが相まって、大規模なコーパスの構築が実現し、それを本格利用して英語辞書を編んだ Sinclair の時代を待たねばならなかつた。現在、急速に普及している生成 AI（大規模言語モデル）は、Firth の考え方を引き継いでいる側面もあると考えられる。本講演では、20世紀後半のイギリスの言語学史の系譜、特に Firth から Sinclair への流れを踏まえつつ、語の振る舞いを記述するにはどのような視点、方法が必要であるかを、英語を例にして考える。また、生成 AI を利用して得られる結果とコーパスを利用して得られる結果の整合性、さらに「生成 AI の内部メカニズム（頭の中）」についても簡単に触れる。

14:30-15:50：山崎のぞみ「英語の話し言葉コーパスで探る会話の共同構築」

概要： 一人で話すスピーチや演説と異なり、会話では話者同士が「話し手」の役割を

互いに交替しながら即興的に発話をやりとりする。つまり話者は、相互に影響を及ぼし合いながら共同で会話を構築する。この「会話の共同構築」(co-construction) 現象は、ターン交替や役割の交替という会話の組織的構造面のほか、語彙や文法の言語面にも見られる。例えば話者は、相づちを打ったり、相手の発話（の一部）を繰り返したり、言い換えたり、先取りしたり、付け加えたりする。このように相手の発話を踏まえて相互にやりとりすることによって、会話の共通基盤が築かれ、話者同士の心的距離が縮まる。本講座では、英語の話し言葉コーパスを用い、会話における双方向性が発話の共同構築をいかにもたらすのかについて、語彙と文法の両面から考察する。

15:50-16:20：全体討論